

平成 31 (2019) 年 4 月入学
大阪大学大学院医学系研究科保健学専攻
博士後期課程学生募集要項

【一般選抜・社会人特別選抜】

平成 30 年 5 月

大阪大学大学院医学系研究科保健学専攻
〒565-0871 大阪府吹田市山田丘1番7号
電 話 (06) 6879-2512 (直通)
<http://sahswww.med.osaka-u.ac.jp/www/home.html>

平成 31 年度 大阪大学大学院医学系研究科 保健学専攻 博士後期課程 学生募集要項

平成 31 年度大阪大学大学院医学系研究科保健学専攻博士後期課程の入学者を次のとおり募集します。選抜方法は、「一般選抜」と「社会人特別選抜」を実施します。

1. 募集人員

保健学専攻 23 名（社会人特別選抜による 10 名程度を含みます）

2. 出願資格

次の各号のいずれかに該当する者、又は次の各号のいずれかについて平成 31 年 3 月末日までに該当する見込みの者

- (1) 修士の学位又は専門職学位を有する者
- (2) 外国において、修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者
- (3) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修し、修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者
- (4) 我が国において、外国の大学院の課程を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了し、修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者
- (5) 国際連合大学の課程を修了し、修士の学位に相当する学位を授与された者
- (6) 外国の学校、(4) の指定を受けた教育施設又は国際連合大学の教育課程を履修し、大学院設置基準第 16 条の 2 に規定する試験及び審査に相当するものに合格し、修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認められた者
- (7) 文部科学大臣の指定した者（平成元年 9 月 1 日文部省告示第 118 号）
「大学を卒業し、又は外国において学校教育における 16 年の課程を修了した後、大学、研究所等において、2 年以上研究に従事した者で、本研究科において、当該研究の成果等により、修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認めた者」
- (8) 本研究科において、個別の出願資格審査により、修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認められた者で、平成 31 年 3 月 31 日までに 24 歳に達する者

注 1) 出願資格 (7)、(8) により出願しようとする者は、事前に個別の出願資格審査（**3. 個別の出願資格審査**）参照）を行い、合格者のみが出願できます。

注 2) 社会人特別選抜を志願することができる者は、上記出願資格のいずれかに該当する者で、平成 31 年 4 月時点で、医療・保健・福祉施設、教育研究機関、官公庁、企業等において 3 年以上（修士修了者は修了後 1 年以上）の実務経験（通算可）を有する者で、入学後も引き続き在職するものとします。

3. 個別の出願資格審査

「2. 出願資格」の (7)、(8) により出願を希望する者は、個別の出願資格審査を行いますので、所定の期日までに下記書類を医学系研究科保健学事務室教務係（以下、「教務係」という）へ持参または郵送してください。

【持参の場合】

受付期間・・・平成 30 年 8 月 2 日（木）～ 3 日（金）

受付時間・・・午前 9 時 30 分～同 11 時、午後 1 時 30 分～同 3 時

【郵送の場合】

必ず「書留」郵便で封筒の表に「後期課程出願資格審査申請書類在中」と朱書きしてください。
平成30年8月1日（水）までの消印（日本国内に限る）のあるもの限り受理します。

宛先・・・〒565-0871 大阪府吹田市山田丘1-7

大阪大学大学院医学系研究科保健学事務室教務係

（出願資格審査申請書類）

＜2. 出願資格の（7）に該当する者＞

- 1) 出願資格審査申請書（本研究科所定の用紙）
- 2) 出身大学の卒業証明書、及び成績証明書
- 3) 研究業績調書（本研究科所定の様式）
- 4) 既発表の代表論文（原著で査読のある論文）一編
- 5) 在職期間証明書（実務経験のある方。所属長による証明、様式任意）
- 6) 返信用封筒（本研究科所定の長形3号の封筒に申請者の住所、氏名、郵便番号を記載し392円分の切手を貼付）

＜2. 出願資格の（8）に該当する者＞

- 1) 出願資格審査申請書（本研究科所定の用紙）
- 2) 最終学歴の卒業（修了）証明書又は退学証明書
- 3) 高等学校等卒業後の在籍学校にかかる成績証明書
- 4) 研究業績調書（本研究科所定の用紙）
- 5) 既発表の代表論文（原著で査読のある論文）一編
- 6) 在職期間証明書（実務経験のある方。所属長による証明、様式任意）
- 7) 返信用封筒（本研究科所定の長形3号の封筒に申請者の住所、氏名、郵便番号を記載し392円の切手を貼付）
- 8) 下記Iの（オ）に係る最終学歴（退学を含む）とする者は、当該学校の入学資格、卒業又は修了に必要な修業年数・単位（時間）数のわかる書類

注1) 出願資格審査申請書の実務経験欄に記載した経歴すべてについて、所属長等による証明書を提出してください。

注2) 書類提出後、必要に応じ個別に書類の追加提出を求める場合があります。

※出願資格審査の結果は、本人に書面（簡易書留）で通知します。平成30年9月19日（水）までに審査結果が届かない場合は、教務係まで問い合わせてください。問い合わせがない場合は受け取ったものとして取扱います。

大阪大学医学系研究科保健学事務室教務係

〒565-0871 大阪府吹田市山田丘1番7号

電話 (06) 6879-2512 (直通)

記

修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認められる者の個別の入学資格審査

文部科学大臣の指定した者として定める「大学院の入学に関し修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認められる者（平成元年9月1日文部省告示第118号）（出願資格(7)を参照）」の文言中、次の文言について、それぞれに規定する解釈により個別の審査を行い、該当することとなっている者を以て適格者とする。

- 1 「大学を卒業し、又は外国において学校教育における16年の課程を修了」とは、本研究科において「大学を卒業した者と同等以上の学力があると認められる者の個別の出願資格審査」を行い、適格と判定されたものを加える。（*）
- 2 「大学、研究所等において」とは、短期大学、外国の大学の日本分校、外国人学校その他国内外の教育・研究・臨床施設等を加えることができる。
- 3 「研究に従事」とは、国際的活動、臨床実務に従事した時間を加えることができる。
- 4 既発表の代表論文（原著）一編
- 5 「当該研究の成果等」とは、学術論文、著書、研究発表、特許（実用新案を含む）等のほか国際的活動の実績、教育・研究・臨床施設における特異な実績等をいう。

本研究科において行う「大学を卒業した者と同等以上の
学力があると認められる者の個別の出願資格審査」（*）

I 審査対象者の基準

次の左欄の学校の卒業、修了又は退学者で、右欄の期間の実務経験者を有する者（見込も含む）とする。

最 終 学 歴	実務経験等の期間（※）
(ア) 修業年限2年の短期大学の卒業者	2年以上
(イ) 修業年限3年の短期大学の卒業者	1年以上
(ウ) 高等専門学校卒業者	2年以上
(エ) 修業年限が2年以上の専修学校の専門課程の卒業者	大学卒業までの最短修業年数（16年）から専門課程を置く専修学校の修業年限を控除した期間以上
(オ) 外国の大学の日本校、外国人学校、専修学校（専門課程を除く）、各種学校その他国内外の教育施設の卒業者又は修了者	大学卒業までの最短修業年限（16年）から最終学校卒業又は修了までの最短修業年数（入学資格を同一とする学校を複数卒業又は修了している場合は、修業年限の最長のもののみ採用）を控除した期間以上
(カ) 上記の（ア）から（オ）までに掲げる学校の退学者	大学卒業までの最短修業年限（16年）から当該退学した学校の退学時までの修業年数を控除した期間以上。ただし、退学時までの標準履修単位（時間）数を修得していない場合は、修得単位（時間）数の相当年数を以て修業した年数とします。

※実務経験等の期間とは、次の期間を合算したものをいいます。

- (1) 大学又は短期大学において、研究生として在学した期間
- (2) 短期大学及び高等専門学校に置かれた専攻科等に在学した期間
- (3) 大学・短期大学、官公庁、研究所、会社等の教育又は研究開発部門に教育職又は研究職として研究に従事した期間
- (4) 病院等における臨床実務に従事した期間
- (5) 前各号に定める以外の期間については、当該期間毎に審査し、それぞれに一定の換算率を乗じて得た期間

II 評価の基準

最終学校の教育水準、成績、実務経験の内容等を総合的に勘案して行います。

4. 願書受理期間及び提出書類

入学志願者は次に示す「出願に要する書類」等を一括取り揃えのうえ、所定の期日までに教務係へ持参又は郵送してください。

【持参の場合】

受付期間・・・平成30年9月27日（木）及び同28日（金）

（受付時間・・・午前9時～同11時、午後1時～同3時）

【郵送の場合】

本研究科所定の封筒で必ず「書留」郵便としてください。平成30年9月26日（水）までの消印（日本国内に限る）のあるものに限り受理します。

宛先・・・〒565-0871 大阪府吹田市山田丘1-7

大阪大学大学院医学系研究科保健学事務室教務係

なお、出願前に指導を希望する教員と必ず連絡をとり、入学後の研究・教育について相談しておいてください（別表「指導教員の研究概要」を参照）。その際に、入学願書に指導予定教員の捺印をもらうこと。

出願に要する書類等一覧表

書 類	内 容
1. 入学願書	所定の用紙に所要事項を記入してください。 ※指導を希望する教員の捺印をもらうこと。
2. 連絡受信先シール	所定の用紙に所要事項を記入してください。 ※住所を変更した場合は、早急に教務係に連絡してください。
3. 成績証明書	ア. 大学院修士課程（博士前期課程）の成績証明書〔ただし本研究科保健学専攻博士前期課程修了（見込）者は不要〕および学部の成績証明書〔ただし本学部卒業者は提出不要〕。（3年次編入した者は、編入前の学校の成績証明書も提出してください。） 学位授与機構から修士の学位を授与された場合は大学（短期大学）以降の全成績証明書を提出。 イ. 出願資格（7）、（8）：提出不要
4. 修士課程修了（見込）証明書等	ア. 修士課程（博士前期課程）修了（見込）証明書〔本研究科保健学専攻博士前期課程修了（見込）者は不要〕 イ. 学位（修士）授与証明書 ウ. 出願資格（7）、（8）の者は、提出不要
5. 修士論文の内容の要旨	修士の学位を有する者
6. 受験票・写真票	上半身脱帽正面向きで3ヶ月以内に単身撮影したものを所定の用紙に貼付
7. 志望理由書	本研究科所定の用紙
8. 検定料	30,000円を添付の振込依頼書により銀行振込（ATM不可）、ご依頼人氏名欄には必ず志願者本人の氏名で納入してください。なお、振込手数料は各自で負担してください。 ※本学大学院博士前期課程を修了し、引き続き博士後期課程に入学する者は、検定料を納入する必要はありません。 ※国費外国人留学生の検定料の取扱いについては、教務係へ問い合わせてください。 納入済の検定料は返還しません。ただし、次の場合により検定料を振り込まれた場合は、検定料を返還します。 ①出願したが受験資格がなかった場合 ②出願書類受付期間後に出願書類が到着し、受理されなかった場合 ③出願書類に不備があり受理されなかった場合 ④検定料を払い込んだが出願しなかった場合 ⑤検定料を誤って二重に振り込んだ場合

	<p>なお、返還請求については、下記へ申し出てください。 返還請求書を送付いたします。 〒565-0871 大阪府吹田市山田丘1番7号 大阪大学大学院医学系研究科保健学事務室教務係 電話 (06) 6879-2512 (直通)</p>
9. 検定料納入証明書	検定料納入証明書を所定の欄に貼付してください。
10. 願書受理通知用ハガキ	本研究科所定のハガキ(郵送で出願する場合のみ。志願者の氏名及び住所・郵便番号を明記し、62円分の郵便切手を貼付してください。)
11. 受験票送付用封筒	本研究科所定の封筒(志願者の氏名及び住所・郵便番号を明記し、82円分の郵便切手を貼付してください。)
12. 住民票の写し	<p>外国人の志願者は、市区町村長発行の在留資格及び在留期間を明記した「住民票の写し」を提出してください。外国人登録証明書(カード)・在留カードではありません。</p> <p>※出願者以外の世帯員については、証明不要です。 (注)法務大臣が日本での永住を認めた者については、提出する必要はありません。</p>
13. 戸籍抄本	結婚等で姓が異なる方は提出してください。(卒業証明書・成績証明書等記載氏名との確認のため)
14. 出願資格(6)に相当する審査合格確認(証明)書類(出願資格(6)により出願する場合のみ該当)	<ul style="list-style-type: none"> ・出願資格(6)で出願の者 ・出身大学長等が作成(署名)したもので、下記の内容が記載されたものを提出してください。 【様式例】□□大学としては、本学の学生である◇◇◇◇氏は、「(審査名称)」に合格し、修士の学位を有する者と同等以上の学力を有する者であることを確認し、報告いたします。また、当該審査に関する以下の添付資料を同封します。 【添付資料の例】 ・当該審査の合格の基準 ・当該審査の合格と当該大学における修士の学位の授与要件の関係を示す資料 ・当該審査に合格した者と当該大学に編入学した他の大学の修士の学位を有する者の当該大学における博士の学位を授与するプログラムにおける取扱いの関係を示す資料

社会人特別選抜の志願者は、上記に併せて次の書類を提出してください。

15. 在職期間証明書	<p>実務経験等を3年以上有することの所属長による証明(様式任意) ※出願資格(7)、(8)の者は、提出不要</p>
16. 受験許可書(入学承諾書)	出願時、医療・保健・福祉施設、教育研究機関、官公庁、企業等に勤務し、入学後も引き続き在職する者。

※出願に際しての注意事項

- 1) 出願書類に不備がある場合は、原則として受理しません。また、出願後は原則として記載事項の変更は認めません。
- 2) 受理した出願書類及び検定料は、理由のいかんにかかわらず一切返還しません。
- 3) 障がい等のある者で、受験及び修学に際して特別な配慮を希望する者は、出願前に教務係に相談してください。
- 4) 入学願書の履歴、入学資格等につき虚偽の記載をした者は、入学決定後であっても入学の許可を取り消すことがあります。

5. 志望研究領域の選定

志願者は、別表「指導教員の研究概要」に示す研究領域の中から1研究領域を選んでください。

6. 長期履修学生制度

職業を有している等の事情により、標準修業年限を超えて計画的に教育課程を履修することを希望する者

は、合格後に教務係へ問い合わせてください。申請書様式等をお渡しいたします。申請書類の提出締切は平成31年1月末です。

7. 試験日程・試験場所

月 日 (曜日)	時 間	試験内容	場 所
平成30年11月2日 (金)	9:30~11:30	学力検査	大阪大学大学院医学系研究科 保健学専攻 吹田市山田丘1-7
	13:00~18:00	口述試験	

8. 入学者選抜方法

入学者の選抜は、学力検査及び口述試験の結果、並びに成績証明書等の内容を総合して行います。

(1) 一般選抜

1) 学力検査科目

外国語 (英語) : 100点

※外国語 (英語) では全員に英和辞書を貸与します。英和辞書の代わりに、英英辞書の貸与を希望する者は、入学願書のチェック欄にチェックしてください。

2) 口述試験 : 100点

志望する研究領域に関する実践能力、研究能力等について個別に口述試験を行います。

口述試験の発表方法 (パソコン等の使用機器) にあたっては、分野により異なりますので、詳細は指導を希望する教員と必ず打ち合わせしてください。

修士論文あるいは、これまでの研究内容について発表し、それをもとに質疑応答を行います。

(2) 社会人特別選抜

1) 学力検査科目

外国語 (英語) : 50点

※外国語 (英語) では全員に英和辞書を貸与します。英和辞書の代わりに、英英辞書の貸与を希望する者は、入学願書のチェック欄にチェックしてください。

2) 口述試験 : 100点

口述試験の内容は、一般選抜と同じ。

9. 受験に際しての注意事項

- (1) 試験に関する注意事項 (試験室配置図及び受験者心得等) を受験票と共に返信用封筒にて一週間前までに郵送します。また11月1日 (木) 13時より、保健学専攻正面玄関前に掲示します。
- (2) 試験当日は、指定された席に試験開始15分前に着席してください。
- (3) 受験に際しては受験票を必ず持参してください。なお、受験票は入学に関する諸手続にも必要なもので、紛失しないよう大切に保管しておいてください。
- (4) 受験のための宿泊施設等の斡旋はしません。
- (5) 自家用自動車及びオートバイ (原動機付自転車を含む) での大学構内への入構はできません。

10. 合格発表

平成30年11月12日 (月) 13時 (予定)

医学系研究科保健学専攻正面玄関横掲示板にて受験番号で掲示発表します。また、当日17時まで、合否通知書等を教務係で交付します。当日、受領しなかった者には合格発表翌日に、発送します。電話等による合否の問い合わせには一切応じません。

入学手続書類等については、平成31年2月上旬に別途通知します。

11. 個人情報の取扱いについて

- (1) 出願時に提出された氏名、住所、その他の個人情報については、「入学者選抜 (出願処理、選抜試験実

施)、「合格者発表」及び「入学手続」等の入試業務を行うために利用します。

なお、入学者については、「教務関係(学籍管理、修学指導等)」、「学生支援関係(健康管理、授業料免除・奨学金申請、就職支援等)」及び「授業料収納に関する業務」を行うためにも利用します。

- (2) 入学者選抜に用いた試験成績等の個人情報は、「入試結果の集計・分析」、「入学者選抜方法の調査・研究」及び「学生支援関係(奨学金申請等)」のために利用します。
- (3) 前記の(1)及び(2)の業務を行うに当たり、一部の業務を外部の事業者へ委託する場合があります。この場合、外部の事業者と個人情報の取扱いが適切に行われるよう契約を結んだ上で、当該事業者に対して、提出された個人情報の全部または一部を提供します。

12. 入学料及び授業料

1) 入学料・・・282,000円

2) 授業料・・・年額 535,800円〔半期 267,900円〕

※本学大学院博士前期課程を修了し、引き続き博士後期課程に入学する者は、入学料を徴収しません。

※入学料、授業料の金額については変更することがあります。

在学中に授業料の改定が行われた場合には、改定時から新授業料が適用されます。

13. 大阪大学大学院医学系研究科保健学専攻への道順

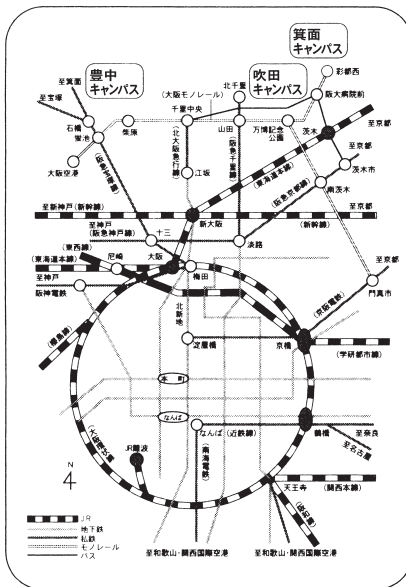
○利用交通機関

[バス] 阪急バス 千里中央発「阪大本部前行」又は「茨木美穂ヶ丘行」
近鉄バス 阪急茨木市駅発「阪大本部前行」(JR 茨木駅経由)
いずれも阪大本部前下車、徒歩約5分

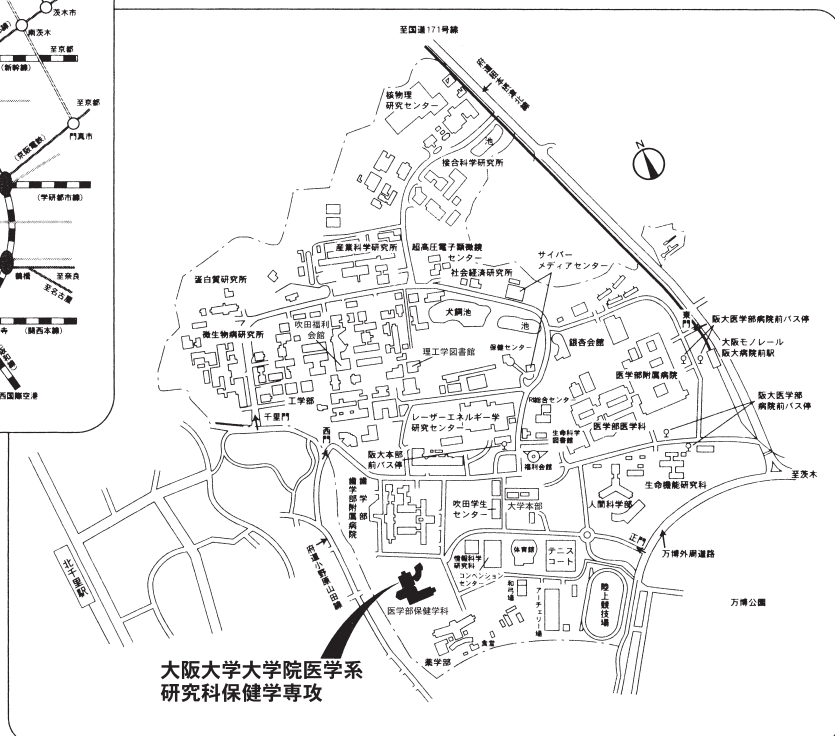
[モノレール] 大阪モノレール 阪大病院前下車(西へ徒歩約15分)

[電車] 阪急電車千里線 北千里駅下車(東へ徒歩約25分)

○交通案内



○周辺地図



大阪大学大学院医学系研究科保健学専攻博士後期課程概要

1. 保健学専攻アドミッション・ポリシー

大阪大学は、教育目標に定める人材を育成するため、学部又は大学院の教育課程等における学修を通して、確かな基礎学力、専門分野における十分な知識及び主体的に学ぶ態度を身につけ、自ら課題を発見し探求しようとする意欲に溢れる人を受け入れます。このような学生を適正に選抜するために、研究科・専攻等の募集単位ごとに、多様な選抜方法を実施します。

大阪大学のアドミッション・ポリシーのもとに、保健学専攻博士前期課程では、これからの日本、そして世界における保健・医療・福祉のさまざまな課題を、リサーチマインドをもって探求、解決に努力する、臨床実践者、臨床科学技術者、研究者、教育者を目指す人を求めています。医学分野だけでなく多様なバックグラウンドをもつ学生が共に学ぶことにより、画期的な発想が生まれ、高い専門性と豊かな人間性が培えると考えます。医療専門職としてチーム医療や地域医療でリーダーシップをとることができる人材や、保健医療科学の研究者として研究開発を行う人材には、広い視野と柔軟な理解力が必要であり、基本的な英語力は必須です。急速に高齢化が進むわが国で、人々の健康の増進に貢献したいという情熱のある人、新たな技術の開発に向けた研究を行う気概のある人を求めています。

博士後期課程では、保健医療科学の分野で、グローバルな知識を持ち、国際的なリーダーシップを発揮できる研究者の育成を目的としています。そのためには、豊かな語学力とともに、新たな分野を萌芽的な段階の研究から切り開いていく能力、自らの専門分野にとどまらず他領域との融合による新たな展開を図る能力など、高度のデザイン力が必要とされます。また、保健・医療・福祉の研究では高い倫理観を持つことも大切です。医療界のみならず産業界からも期待され、将来の保健医療福祉分野において国際的な貢献を目指す、多角的な視野を持つ人を求めています。

2. 課程

博士課程は、前期2年の課程及び後期3年の課程と区分し、前期課程は、修士課程として取り扱います。

前期課程は、広い視野に立って精深な学識を授け、統合保健看護科学及び医療技術科学分野における研究能力又は高度の専門性を要する職業等に必要の高度な能力を養うことを目的としています。

後期課程は、統合保健看護科学及び医療技術科学分野の研究者として自立して研究活動を行い、又はその他の高度に専門的な業務に従事する必要な高度の研究能力及びその基礎となる豊かな学識を養うことを目的としています。

希望者はがん医療に関わる専門職・研究者を養成する教育・研究コース（がんプロコース）を履修できます。これは我が国のがん医療の状況を改善するため平成18年度に制定された「がん対策基本法」第14条に定められている「がん医療に携わる専門的な知識及び技能を有する医療従事者の養成を図るために必要な施策」の文部科学省の教育プログラムとして平成19年度からスタートしました。平成29年度からは「多様な新ニーズに対応するがん専門医療人材(がんプロフェッショナル)養成プラン」として継続しています。保健学専攻では医学物理学、細胞診断学を研究するコースがあります。入学後、これらのコース志望の大学院生は他の学生と別のカリキュラムを受講してもらいます。詳細は「ゲノム世代高度がん専門医療人の養成」ホームページ <http://www.osaka-ganpro.jp/> を参照してください。

※がんプロコースを志望する学生は、出願に先立ち、担当教員である教授に必ず問い合わせてください。

医学物理学 小泉雅彦教授 mail : koizumi@sahs.med.osaka-u.ac.jp

細胞診断学 山本浩文教授 mail : hyamamoto@sahs.med.osaka-u.ac.jp

(1) 社会人の修学上の便宜

社会人特別選抜で入学した者に対し、社会人としての職務の遂行と本専攻での履修が両立するよう大学院設置基準第14条特例を実施し、授業科目の夜間・土曜日の開講により修学上の便宜を図ります。

また、研究指導は、夜間・土曜日、夏季・冬季休業期間等に行うほか、情報ネットワークを利用して行うこともあります。

履修計画については、指導教員のもとに作成します。

(2) 修了の要件

- 博士後期課程に3年以上在学し、授業科目について所定の単位（次に示す10単位以上）を修得し、かつ必要な研究指導を受け、博士論文の審査及び最終試験に合格しなければなりません。

ただし、在学期間に関しては、特に優れた研究業績を上げた者については、研究科教授会が認めた場合に限り、修士課程又は前期課程における2年の在学期間と通算して3年以上在学すれば足りるものとします。

- 所定の単位の修得方法

- ・ 指導教員による講義（特講） 必修2単位
- ・ 指導教員の指示した講義 選択必修2単位以上
- ・ 指導教員による演習（特講演習） 必修2単位
- ・ 特別研究 必修4単位

(3) 学位

本課程を修了した者には、学位規則（昭和28年文部省令第9号）の定めるところにより、博士（保健学）又は博士（看護学）の学位を授与します。

3. 平成30年度博士後期課程開設授業科目について

平成30年度博士後期課程開設授業科目については、本学大学院医学系研究科保健学専攻HPに記載しておりますので下記よりご参照ください。

http://sahswww.med.osaka-u.ac.jp/www/graduate/graduate_gaiyo.html

大阪大学大学院医学系研究科 保健学専攻 HP > 大学院医学系研究科 > 履修概要

http://sahswww.med.osaka-u.ac.jp/www/graduate/graduate_list.html

大阪大学大学院医学系研究科 保健学専攻 HP > 大学院医学系研究科 > 専門科目一覧

別表：指導教員の研究概要（博士後期課程）

分野	研究領域	氏名	研究テーマ
統 合 保 健 看 護 科 学 分 野	看護実践開発科学1	梅下 浩司	1. 臓器移植の術前・周手術期・術後の病態と支援に関する研究 2. 消化器癌患者の病態と支援に関する研究 3. 手術医学／手術室看護に関する研究
	看護実践開発科学2	福井 小紀子	1. エンドオブライフケア・緩和ケアに関する研究 2. 看護・介護サービスの質評価に関する研究 3. 多職種連携・医療介護連携に関する研究 4. 看工連携・介護ロボット（見守り機器）に関する研究
	看護実践開発科学3	荒尾 晴恵	1. がん看護に関する研究 2. 緩和ケアに関する研究
	看護実践開発科学4	清水 安子	1. 慢性病患者のセルフケアに関する研究 2. 慢性病患者の看護に関する研究
	看護実践開発科学5	遠藤 淑美	1. 精神障害を持つ人の看護に関する研究 2. 精神科看護師による補完代替療法の活用に関する研究 3. 患者との対話を生み出す看護師教育に関する研究
	生命育成看護科学1	酒井 規夫	1. 先天異常患者の遺伝医療に関する研究 2. 先天代謝異常症患者家族に対する診断、治療に関する研究 3. 遺伝性疾患に対する遺伝カウンセリング、遺伝看護に関する研究
	生命育成看護科学2	山崎 あけみ	1. 小児看護に関する研究 2. ファミリーインタビュー・家族機能尺度を用いた家族を対象とする研究 3. 家族看護の院内教育プログラム構築に関する研究
	生命育成看護科学3	大橋 一友	1. 妊産婦管理の科学的実証研究 2. 女性のライフサイクル各期における健康支援に関する研究 3. 途上国の母子保健支援に関する研究
	生命育成看護科学4	松崎 政代	1. 妊娠期・産後の生活習慣と母児への影響 2. 客観的指標を用いた母乳育児支援
	生命育成看護科学5	渡邊 浩子	1. ウィメンズヘルスに関する健康支援の研究 2. 妊娠中の栄養・体重管理に関する研究 3. 母子支援に関する研究
	総合ヘルスプロモーション科学1	岡本 玲子	1. Positive Health と予防に資する公衆衛生看護技術の開発と普及 2. 効果的な保健師教育プログラム・教材・評価指標の開発と普及 3. 実践現場との協同によるアクションリサーチ
	総合ヘルスプロモーション科学2	神出 計	1. 在宅要介護高齢者のケアシステムに関する研究 2. 生活習慣病の予防・治療におけるヘルスプロモーションに関する研究 3. 高齢者コホート研究による健康長寿の要因の探求
	総合ヘルスプロモーション科学3	大野 ゆう子	1. 保健医療分野における数理モデル構築に関する研究：ケアメトリクス・予後予測 2. 病院・病棟業務分析：タイムスタディ・タイムプロセススタディ 3. 看工融合領域の研究(Robotics & Design for Innovative Healthcare)
	総合ヘルスプロモーション科学4	小西 かおる	1. 在宅重症療養患者にかかる地域ヘルスケアシステムの構築に関する研究 2. 保健活動の質の評価指標の開発に関する研究 3. 発展途上国におけるヘルスプロモーションに関する研究
	総合ヘルスプロモーション科学5	井上 智子	1. 看護サービスの質を高める看護組織のあり方 2. 安全と安楽を高める看護技術 3. あらたな看護サービスの開発と評価

分野	研究領域	氏名	研究テーマ	
統合保健看護科学分野	連携分野	先進医療・臨床試験科学 (連絡教員1:山本浩文) (連絡教員2:大野ゆう子)	山本 晴子 濱崎 俊光 [国立循環器病研究センター]	1. 医薬品・医療機器の臨床開発・評価方法の研究 2. 臨床試験/観察研究のデザインと解析における統計的方法の研究 3. 臨床試験の効率的実施・運営に関する方法の研究
		多職種チーム医療に基づくがん看護学 (連絡教員:大野ゆう子)	山口 建 北村 有子 [静岡県立静岡がんセンター]	1. 先進的がん医療と多職種連携に関する研究 2. 患者家族支援と多職種チーム医療に関する研究 3. がん医療における多職種チームの構築に関する研究
		移植コーディネーター学 (連絡教員:梅下浩司)	福 嶋 教 偉 [国立循環器病研究センター]	1. 終末期の患者家族への対応、臓器あっせんにおけるコーディネーターとシステムの研究 2. 臓器移植医療における適応評価から移植までのコーディネーターとシステムの研究 3. 移植コーディネーターの臨床能力に関する教育の研究
		がん統計・インフォマティクス (連絡教員1:大野ゆう子) (連絡教員2:三善英知)	片野田 耕太 [国立がん研究センター]	1. がん登録をはじめとしたがんの統計情報の総合的な解析 2. 科学的根拠に基づくがん情報の整備とがん対策の系統的かつ科学的評価
医療技術科		医療技術科学 1 (機能診断科学)	中 谷 敏	1. 循環器疾患の機能画像診断学 2. 超音波新技術を用いた心動態評価法の開発
		医療技術科学 2 (医用物理工学)	本 行 忠 志	1. 低線量放射線による生物影響の研究 2. 放射線による組織の線維化とその抑制の研究
		医療技術科学 3 (医用物理工学)	福 地 一 樹	1. 循環器核医学診断学 2. 分子イメージングに関する研究
		医療技術科学 4 (医用物理工学)	小 泉 雅 彦	1. 放射線治療技術学に関する研究 2. 放射線腫瘍生物学
		医療技術科学 5 (医用物理工学)	近 江 雅 人	1. 光プローブを用いた断層撮影法の開発 2. OCTによる表皮下微小器官の機能解析 3. OCTの皮膚科学分野への診断応用
		医療技術科学 6 (医用物理工学)	石 田 隆 行	1. コンピュータ支援診断に関する研究 2. 人工知能・先端画像処理の医療への応用
		医療技術科学 7 (先進ゲノム医学物理コース)	小 泉 雅 彦	1. 医学物理に関する研究 2. 医学物理学基礎としての放射線生物学に関する研究
学 連 携 分 野		医療技術科学 8 (分子イメージング学) (連絡教員:福地一樹)	樋 口 隆 弘 [国立循環器病研究センター]	1. 放射性同位元素を用いた新規トレーサーの開発と応用 2. 高磁場 MRI 装置・高分解能 CT 装置による前臨床研究基盤開発 3. 先端医療・細胞治療の分子イメージングによる開発支援
		医療技術科学 9 (粒子線治療学) (連絡教員:小泉雅彦)	沖 本 智 昭 赤 城 卓 [兵庫県立粒子線医療センター]	1. 粒子線治療の臨床研究 2. 粒子線治療装置の運用効率化に関する研究 3. 粒子線治療の物理工学研究
		医療技術科学 10 (粒子線治療学) (連絡教員:小泉雅彦)	金 井 達 明 [大阪重粒子線センター]	1. 粒子線治療の物理工学研究
		医療技術科学 11 (画像誘導放射線治療学) (連絡教員:小泉雅彦)	手 島 昭 樹 [大阪国際がんセンター]	1. 画像誘導法を用いた強度変調放射線治療に関する研究 2. 画像誘導法を用いた定位照射に関する研究 3. 画像誘導法を用いた患者動体解析に関する研究

分野	研究領域	氏名	研究テーマ
医療技術科学	医療技術科学12 (生体情報科学)	木原進士	1. 動脈硬化発症機構の解析 2. 脂肪細胞由来因子を用いた動脈硬化の診断・治療法開発
	医療技術科学13 (機能診断科学)	高橋正紀	1. 遺伝性神経筋難病の病態解析・治療開発研究 2. 生体膜の興奮性に関する病態・診断研究 3. 非侵襲的脳機能評価に関する研究
	医療技術科学14 (生体情報科学)	戸邊 亨	1. 病原性大腸菌の病原因子の作用機構の解析 2. 腸管内環境における病原性発現の調節機構の解析 3. 比較ゲノム解析による病原菌出現の分子機構解析
	医療技術科学15 (機能診断科学)	三善英知	1. 消化器疾患の糖鎖マーカーの開発 2. 肝臓の代謝病態学 3. 糖鎖機能の解明と病態検査学への応用
	医療技術科学16 (生体情報科学)	辻川元一	1. 再生医療の臨床応用および基礎的研究 2. ゼブラフィッシュを用いた神経・眼変性疾患の病態解明、治療法開発 3. 遺伝性角膜疾患の病態解明、治療法開発 4. ヒト分子遺伝学
	医療技術科学17 (機能診断科学)	尾路祐介	1. ウィルムス腫瘍遺伝子 WT1 の癌遺伝子機能 2. 癌免疫療法 (ペプチドワクチン・養子免疫療法) の開発 3. WT1 遺伝子を標的とした白血病の分子標的治療の開発 4. 癌免疫モニタリングマーカーの開発
	医療技術科学18 (機能診断科学)	山本浩文	1. がんの病理と分子機構 2. がんの核酸治療 3. がん幹細胞の特性 4. がんの三次元ゲノム構造
分野	医療技術科学19 (先進的病理細胞診 研究者養成コース)	山本浩文 南雲サチ子	1. 分子生物学を用いた細胞診断学の研究 2. 細胞形態像とがんの悪性度、治療との関連性の研究 3. 癌の転移の分子機構
	先進医療・臨床試験科学 (連絡教員1:山本浩文) (連絡教員2:大野ゆう子)	山本晴子 濱崎俊光 [国立循環器病研究センター]	1. 医薬品・医療機器の臨床開発・評価方法の研究 2. 臨床試験/観察研究のデザインと解析における統計的方法の研究 3. 臨床試験の効率的実施・運営に関する方法の研究
連携分野	がん統計・インフォマティクス (連絡教員1:大野ゆう子) (連絡教員2:三善英知)	片野田耕太 [国立がん研究センター]	1. がん登録をはじめとしたがんの統計情報の総合的な解析 2. 科学的根拠に基づくがん情報の整備とがん対策の系統的かつ科学的評価
	睡眠医学 (連絡教員:高橋正紀)	立花直子 [関西電力医学研究所]	1. 睡眠・覚醒モニタリングに関する研究 2. 睡眠技士 (sleep technologist) のキャリア開発の研究